

令和7年度 学校評価報告書（目標設定・実施結果）

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (12月19日実施)	総合評価（ 3月9日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	①個に応じた進路を実現するために、教育課程の編成と履修指導の充実を図る。 ②基礎的・基本的な知識や技能を身につけさせ、課題解決に必要な思考力・判断力・表現力をはぐくむことができる授業作りを進める。	①生徒の多様な進路に合わせて、生徒一人一人の進路希望に沿った、適切で丁寧な履修指導を行う。 ②教授法を工夫するとともに、ICT 機器を有効活用し、生徒の理解度を高める授業を実践する。各教科や総合的な探究の時間においてはSDGs の観点から幅広い知識と教養を養わせる。	①多様で個別最適な学びのニーズに答えられるよう、分野科目の維持を図り効果的な履修指導を充実させる。また、教員が共通理解できるような研修資料を充実させ、個々の教員の履修指導能力向上を図る。 ②授業力を高めるための研修や電子黒板等の活用に向けた研修会を実施する。また、生徒のSDGs に対する意識を高めるために各教科で取り上げる。	①教員の履修指導能力を向上させることができたか。また、生徒が進路実現に向け、満足できる履修指導をすることができたか。 ②様々な教授法を実践し、電子黒板等を活用することで、生徒の思考を深めるよりよい授業を実施できたか。SDGs に関する問題について興味を持たせ、自分の考えや意見を表現させることができたか。	①教員向けの履修指導研修会を2回行い、きめ細かい履修指導と支援体制を整えた。進路に迷いがある生徒に対して学校全体として粘り強く対応し、生徒の希望を尊重した履修指導を行った。 ②電子黒板との併用で、板書の時間短縮を図り、生徒が深く考え、主体的に取り組むことができる環境を作ることができた。SDGs探究活動では調べ学習の効率化を図り、生徒個人の発案を重視した班活動を実践することができた。	①時間割作成において、特定の科目に希望が集中するなどしたため、生徒の進路希望に向けて、より効果的な履修指導を行う必要がある。 ②課題解決に必要な思考力・判断力・表現力を育むことができる授業作りにICT機器の更なる活用方法を提案する。SDGs 探究活動ではA I を活用する方法で効率化を図り、生徒の発案や問題解決に重点を置いたものにしていく。	① AI の活用と並行して調べ学習もさらに重視してはどうか。 ② 新任教員が小学校における研修の際課題・発問に注意深く意識を傾けていたが授業に表れている。電子黒板の活用は積極的に行っていただきたい。授業見学において一人一台端末の利用もできていることを確認した。今後も活用していったほしい。校内で授業への意見交換をする場を作っていったほしい。	①教員の履修指導能力を高め、生徒への適切な履修指導を実施することができた。すべての生徒の希望が実現するように、可能な限り時間割を調整することができた。 ②電子黒板を使い、板書の時間の短縮を図り、資料や動画を提示することで、通常の黒板使用と合わせ、効果的に授業を実践していくことができた。 SDGs 探究活動では生徒が考察できる時間を多くとり、生徒個人の発案を重視したグループ活動を実践することができた。	①調べ学習にA I を活用したりロイロノートで生徒の意見を素早く取り上げたりして、生徒が主体的に取り組んでいける環境を整え、一人一台端末の有効活用を図る。 また、相互の授業見学をとおして、教員同士の意見交換の場を設定し、教員自身の授業方法の更なる改善が図れる機会を設ける。 ②今後も一人一台端末の効果的な利用方法を考察し、デジタルとアナログの併用による授業の組み立てを研究していく。SDGs 探究活動については教科横断的な視点で取り組めるように各教科が授業計画を立てるよう検討を推進する。
2	(幼児・児童・)生徒指導・支援	①生徒の自主自立を目指した生徒指導および個に応じた外国人支援と教育相談の充実を図る。 ②生徒がお互いを尊重し、協力できる体制を構築する。	①各種研修会、年次集会を通して、生徒の主体的に行動する意識を高める。SC・SSW・多文化コーディネーターとの連携を図り、円滑な支援を目指す。 ②学校行事のあり方や時期についての検討を継続する。生徒が主体的に行事に関わる体制を構築する。	①各年次で計画的な研修を実施する。また年次の生徒の状況を踏まえて集会等での継続的な指導を行う。本校の教育課題に沿った教員研修を実施する。アンケートを活用し円滑なチーム支援に繋げる。 ②単位制の特性を生かした行事のあり方の検討を重ねる。また、生徒会、実行委員会で検討し、生徒の主体性を引き出せる形で実施する。	①各年次で効果的な研修会を実施できたか。生徒状況を集約し、各年次の生徒指導に活かすことができたか。要支援生徒についてアンケート等を活用し、必要な支援につなげることができたか。 ②行事への、達成感や満足感を高められたか。本校の行事に関する満足度調査において、昨年度より満足した割合が増えたか。	①交通安全・薬物・人権などの研修会を実施し、生徒の自主自立の精神を育み、規範意識を高めた。サポートドックの結果をもとに効果的な生徒への支援方法を考え実践することができた。個々の事例に対し必要に応じて迅速に外部機関と連携し適切な解決を図った。 ②体育祭・文化祭とも生徒主体の取組みで運営することができ、昨年より生徒にとって達成感の高い行事にすることができた。	①継続的に指導を行い、生徒の規範意識の向上を図る。多様な教育相談についてより迅速に対応するため、教育相談体制を見直す。外国人支援に関する職員アンケートを元に、課題解決に向け組織を再構築していく。 ②生徒にとって満足度の高い、自己肯定感を高められる行事運営計画を立てられるよう支援していく。単位制およびフレキシブルスクールの利点を生かした運営計画を引き出す支援を展開する。	①生徒が抱えている課題はどのようなものがあるのか、またその問題を支援する体制がとれていることを確認できた。多様な学びの活用で、生徒個別の対応が確認できた。 ②文化祭では生徒主体の活躍を感じることができた。	①目的を明確にして研修を実施し、規範意識の向上を図ることができた。教育相談において事案に対し、迅速に情報を共有し担任や年次等と連携して対応できた。 また、業務過多となっている現状が課題であり、支援体制について見直しを行った。外国人支援について、多文化コーディネーターに依存する部分が大きく、業務内容が不透明であったため、アンケート結果をもとに課題を整理した。 ②体育祭・文化祭ともに生徒主体の取組みで運営することができた。実行委員や生徒会の業務の引継ぎが課題である。	①次年度に向け、支援体制を再構築した。新体制で円滑に業務が遂行できるよう、書式や手順を共有し、柔軟な運営を心掛ける。また、具体的な業務の役割分担を明確にし組織を強化するとともに、数年間のスパンで支援方法における校内マニュアルを整備する。 ②行事の職員アンケートや生徒アンケートの声を丁寧に分析する。さまざまな要素を総合的に考えて、ベストミックスの案を提案する。体育祭、文化祭の質の向上に努められるように生徒会と実行委員に働きかける。

	視 点	4 年間の目標 (令和6年度策定)	1 年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (12 月 19 日実施)	総合評価（ 3 月 9 日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	生徒が自ら希望した進路に対して、将来設計に基づいたキャリアを持続的に形成できるように、キャリア教育の充実と個々の進路支援を行う。	①生徒自らキャリアデザイン・キャリア形成ができるように進路ガイダンスの内容を充実化させる。 ②インターンシップや高大連携・高専連携の事業の参加を促す。	①高校生向けの講義、分野講演、学校紹介、模擬授業等の分科会を多く設定するとともに、志望理由書や面接等の時機に応じた進路ガイダンスを行う。 ②生徒への周知方法や時期を工夫し積極的に参加者を募る。進路活動にもつなげられるように、事前指導等で生徒の意識を高める。	①アンケートや振り返りシート等から、生徒自らキャリアデザイン・キャリア形成ができていると判断できるか。 ②インターンシップ、高大連携・高専連携の講座について、参加人数が増えたか。また、振り返りをとおして、進路への意識が高まったと判断できるか。	①大学・専門学校の進路別ガイダンスや社会人による職業別講話などを実施し、生徒のキャリア形成の支援を行った。チューター制度を活用し、生徒への個別支援に力を入れた。アンケートの結果も良好であった。 ②インターンシップや高専連携講座への参加を促し、例年より多くの生徒が参加し、進路意識を高めることができた。	①生徒が進路を意識し生徒自身でキャリア形成ができる方法を今後も考えていく。 本校独自のチューター制度の更なる活性化について考える。 ②今後も体験活動の場をより多く設定し、進路相談室の利用を促すとともに生徒が将来について考える場を提供していく。	①多様化していく進路の保障をしてもらいたい。 ②外国籍の生徒の進路についても、卒業生の支援を期待するなど充実させてほしい。	①各年次において、必要な時期に適切なガイダンスを行うことができた。大学進学については年々受験形態が多様化していくため、出願ミスがないよう丁寧に指導していきたい。 外国籍の進路指導について、多文化コーディネーターの職員に業務が偏っている部分があるため、改善が必要である。 ②今年度は、夏期短期講習への希望が多く、抽選を行うほどであった。今後も周知をしていきたい。 高大連携においては、数年ぶりに専修大学から教科研修生の希望があり、無事終了した。	①校内で必要な手続きの手順と上級学校への出願に必要な手順を明確にし指導する。生徒だけでなく教員にも周知し、指導のズレがないよう留意する。 外国籍の指導について、多文化コーディネーターの先生方に助言をいただきながら、年次でも指導できるよう整える。 ②今後も Classroom やホームルームを使い、インターンシップや連携講座の実施内容を周知していく。 また、アンケート結果をもとに次年度に向けて、より良い指導の充実を図る。
4	地域等との協働	積極的に地域等に本校の魅力を発信するとともに、地域と協働できる学校作りを進め、主体的に考え、協調の精神を備えた、社会に貢献できる人材を育成する。	①学校説明会等の更なる充実を図り、参加者への満足度を高めていく。 本校に興味を持つすべての人に、本校の魅力と特色を発信する。 ②地域の行事等で生徒を活躍させる。	①昨年度の学校見学会等でのアンケート内容をもとに、説明会等のあり方について検討し、内容を充実させることで参加者の満足度を高めていく。 ②地域清掃や町内会等の行事への生徒の積極的な参加を促す。	①説明会等の広報活動全体をおおして、参加者の満足度を上げられたか。その結果志願者の増加等につなげることができたか。 ②より多くの生徒の参加を実現できたか。	①学校見学・学校説明会ともに満員となり、本校への関心度の高さが示された。また、在校生の活躍により、参加者の満足度を高めることができた。 ②全校生徒が地域貢献活動を実施し、清掃活動を行った。また、部活動単位で町内会の行事に参加した。	①学校説明会や校舎見学会をうまく活用し、保護者や入学希望者の期待に沿う環境を今後も整えていく。 ②在校生の活躍できる場を今後も多く設定し、主体的に考え、協調の精神を備えた社会に貢献できる生徒を育成する。	①川崎高校は中学生からも支持されている。また、在県外国人の生徒の入学希望者が増えている。	①入学者選抜において全日制は高倍率になり、「入学したい高校」という価値を高めることができた。定時制においても、志願者を多く募ることができた。 ②地域貢献活動を全年次で行い地域の美化活動に貢献した。 保育園の行事を本校敷地で実施したり、近隣住民の体育的行事の場所を提供したりするなど、地域とのかかわりを増やしていく努力をした。	①「入学したい高校」として、引き続き入学者選抜で多くの志願者を得られるように、落ちついた学習環境の整備を心がけ、安全で安心して過ごせる施設の維持に努める。 ②地域から聴講生を受け入れたり、地域の行事への積極的な生徒の参加を促したりすることによって、さらに地域交流を深めていく。また、本校のことを地域の皆様に理解してもらえるように、教育活動の充実にも力を注ぐ。
5	学校管理 学校運営	教育環境を整備し、質の高い教育を与えるような学校運営を実施する。	①備品の適切な管理に努める。 ②学校美化に努める。 ③災害に備える。 ④ICT 環境を整える。 ⑤私費の適切な管理に努める。	①定期的な点検を行う。 ②清掃活動等の適当な実施時期や方法を模索する。 ③4 月、6 月に実践的な避難訓練を実施する。備蓄食料等を整備する。 ④デジタルサイネージの有効活用を図る。 ⑤会計マニュアルに基づいた執行を行う。	①備品を教育活動に活用できたか。 ②十分な清掃活動を行ったか。 ③防災に対して生徒・教職員の意識を高められたか。 ④デジタルサイネージにより連絡系統を充実させられたか。 ⑤有効なマニュアルを示し、徹底できたか。	①定期的に備品の点検と補充を行った。 ②清掃用具を充実させ定期的な大掃除を実施した。 ③DIG・避難訓練・シェイクアウト訓練を実施した。備蓄食料等の確認、職員向け防災研修を実施した。 ④生徒への発信として図書室にてデジタルサイネージを有効活用した。 ⑤会計マニュアルに基づき適切に執行した。	①②今後も、校内環境の維持を図り、安心で安全な環境づくりを実践していく。 ③防災意識を高め有事のときに冷静に対応できる能力を培わせる。また、防災備蓄食料等の適切な管理も継続する。 ④図書館以外のロッカー室などでも、有効活用を図る。 ⑤今後も適切な会計処理に努める。	① 災害が起きた時に緊急避難場所になることも考えられる。学校の設備などを改めて確認してもらいたい。 ③開かれた学校という体制を続けていくうえで、学校自体のセキュリティーも考えたほうが良いのではないかと。	①電子黒板の不具合やファンヒータの故障など学習環境に支障をきたしてしまうことが起きた。 ②定期的に大掃除を実施し、学校美化に努めた。清掃活動等の実施時期や方法を模索した。 ③実践的な訓練を実施し備蓄食料等を適切に管理した。防災を通して地域と連携していく。 ④図書室に続き、生徒の集まる2Fにあるデジタルサイネージ2 台の更なる有効活用を図っていきたい。 校内のセキュリティーについて、安心して過ごせる校内環境か調査する。 ⑤ 私費の適切な管理に努めた。	①安全で安心して学習できる環境を維持するため、備品類の定期的な点検の実施と故障時に素早く修理ができる態勢を整える。 ②ロングホームルームの時間で清掃活動を定期的に実施し、教室の更なる美化に力を入れる。 ③ ④一時的に避難所として地域の方が本校に集まることを想定し、学校の設備の再確認をする。併せて本校のセキュリティー面のチェックもおこなう。 ⑤物価高に対応させた私費の予算を考える。環境整備費の有効活用を考える。